

4月開校に向けて、関係者の皆様に、心配や戸惑い、混乱を招いてしまったことに大変申し訳なく感じています。

臨時議会において、校名を「打吹至誠小学校」から「成徳小学校」と修正して開校することとなりました。日本海新聞1月30日の福谷議長の論陣「校名問題を巡る議会判断を問う」の記事が議会としての回答になると考えますが、この場をお借りして説明をさせていただきます。

なぜ、成徳小学校を修正動議として提案したかということです。修正理由として5点あげていますが、一番の理由は、「打吹至誠」とすることには賛成できない。そのために、現状維持、つまり、白紙（成徳小）に戻して開校する。そして、できる限り早い時期、開校後すぐにでも校名を決め直す機会を設けていただきたいと考えたからです。

1月17日の臨時議会終了後、私は1月26日の成徳小保護者説明会、1月27日の第2回灘手小保護者説明会に出席しました。成徳小保護者説明会では、1月18日に行われた第1回灘手小保護者説明会と同様、教育委員会から経過説明の後、臨時議会の録画（佐藤議員の修正動議から議案1号の採決まで）がありました。録画は、修正動議につながる質疑はもちろん附帯意見をつけた部分もカットしてありました。改めて①臨時議会の様子として一連のものを出すべき②採決後、教育委員会に対し情報公開、私的諮問機関のあり方等について附帯意見をつけ10名の賛成者がいたことを確認しておきます。

昨年9月議会以降、私は一貫して「至誠」に決めることには賛成できない。明倫小学校を含めた3校統合を前提とした公募で応募が多く、校名にふさわしいのは「打吹」だと考えています。12月定例会でもそのことを訴え、最終的に13対2で校名を「至誠」とする議案を廃止することが出来ました。

12月26日の第15回統合準備委員会で、「打吹至誠」と決定されました。私は、「納得しかねるが、『統合準備委員会の決定を尊重したい、裁判ということになっても致し方ない』という気持ちで「打吹至誠」に賛成するつもりでした。

しかし、年始にお会いした方々のご意見や挨拶状、SNSの投稿等を見聞きしたり、3校統合を前提で校名に応募をされた方、住民直接請求の署名に適正に署名された多くの方の気持ちを考えると、やはり「打吹至誠」で決定することはよくないと考えました。

「打吹至誠」としないため、臨時議会当日まで多くの議員と意見交換をしました。判断を迷っている議員には、白紙（成徳）に戻してもう一度校名について考える機会をつくるべきだと話しました。確かに、臨時議

会前に「打吹」「成徳灘手」という声も耳に入りましたが、残念ながら過半数に届かないことが想定されました。

今回の一連の校名問題に関しては、「成徳」に反対した議員も含め、各議員が校名について、それぞれがその時の状況で真剣に考えた結果です。「自己保身」「談合」「裏取引」と言われる方もありますが、議員が互いの意見を出し合った上での各議員の判断の結果です。

校章・校歌が決定されました。新しい校章・校歌には3校統合がイメージされています。校名についても、新小学校開校後の早期に、明倫地区を含めた3地区による協議、検討されることを望み、行政のサポートをお願いします。